

関上地区まちづくり協議会 世話役会(6) 議事録

日時	平成26年6月2日(月) 18:30~21:00
場所	名取市復興区画整理課会議室(仙台法務局名取出張所2階)
出席者	世話役:(代表)針生勉、(副代表)阿部ひで、(副代表)今野義正、宇佐美久夫、今野慎介、鈴木政義、沼田智幸、木皿裕司、(事務局長)南部比呂志 (事務局)コンサルタント5名 会員:(監査)阿部隆
オブザーバー	仙台高専 坂口先生・学生1名, 傍聴1名, 名取市職員3名, 報道機関1社
議題	0. 議事録の確認 1. 情報発信について 2. 意見取りまとめ(ビジョン)について 3. その他
資料	資料-0 議事次第、第5回世話役会議事録(案)、ニュースレター創刊号 資料-1 おらほのまちづくり提案書(案)、提案箱の趣旨文(案) 資料-2 市役所市民ホール設置可能場所 資料-3 大きな柱の検討シート 【仙台高専】模型検討スケジュール(案)

○ 協議要旨

0. 議事録の確認について

- ・修正は無く議事録を確定した。

1. 情報発信について

- ・提案書、趣旨文ともに修正はなく、内容を確定した。
- ・提案箱の設置について、鍵付きの木の箱を設置し、趣旨文と案内サインを掲示する。

2. 意見とりまとめ(ビジョン)について

- ・まちの資源「海・水」「人」「まち」に整理した前回の取りまとめをもとに議論し、大きな柱として「遊べる」「集まる」「住みやすい」という3つが出てきた。
- ・安全安心は大前提なので大きな柱として打ち立てるものではない。
- ・まちを「感じる」ということも大切ではないか。潮風を感じる、人情を感じる、住みやすさを感じるなど。次回までに事務局で整理する。

3. その他

- ・模型を使った検討スケジュールについて、仙台高専・坂口先生から提案があった。大きな視野で道路、公園等の規模や配置を次回に話し合う。次回の議論を踏まえて、具体的な模型の検討方法を決める。

次回予定:世話役会(7) 6/10(火)18:30~ 名取市復興区画整理課会議室

以下、世話役会の主な意見について記載する。

会議を進めるにあたり、議長を代表世話役の針生氏に選任した。

0. 議事録の確認

- ・第5回世話役会議事録について確認。
 - (意見なし)

1. 情報発信について

● 送付状況

- ・送付文(名取市)、設立のお知らせと参加のお願い、届出書、設立総会議事録、規約、役員、ニュースレター、7種の資料を同封し、木曜日頃に発送予定。
 - 前回議事録では、「経緯説明」を同封することになっている。
 - 8種の資料を同封して発送する。

● 提案箱

資料-1 おらほのまちづくり提案書(案)、提案箱の趣旨文(案)

- ・提案書と趣旨文を確認し、提案箱の設置方法を法務局2階で検討した。
 - 提案書と趣旨文は、概ねこのような方向で良いだろう。
 - 分かりやすく「まちづくりに関する意見を下さい！」と大きく書いてはどうか。
 - 矢印を手書き風にしたたり、色づけなどをしたりして、目立たせる工夫が必要だろう。
 - 提案箱には鍵を付ける。
 - パーティションを利用して掲示する。
- 名取市ホームページのリンク設定
 - ・現在は市HPから準備世話役会ブログにリンクを張っている。協議会HPは6月中旬に正式オープンだが、仮オープン状態の協議会HPにリンクを設定した方が良いか。
 - 総会が終わってから動きがないので、市HPから協議会HPにリンクを設定した方がいい。

2. 意見とりまとめ(ビジョン)について

資料-3 大きな柱の検討シート

- ・まちの資源として「海・水」「人」「まち」が挙げて、前回の意見をとりまとめた。
- ・古き良き閑上をどのように後世に残していくのか、またどんな要素を新しく加えたらいいのだろうか。
(まちのイメージ)
 - 朝市、閑上ビーチなど「人が集まる」がキーワードではないか。名取リゾートのイメージがある。
 - これからつくっていく「新しい閑上らしさ」が視点として必要だ。
 - 事例として、よその町だったら、どこに住んでみたいか。
 - 昔と今が融合できているのは[函館]だろう。閑上も昔と今が融合できるといい。
 - 海というキーワードは絶対外せないが、[藤沢]や[鎌倉]とは違うのではないか。
 - [江ノ島]は色んな人が混ざり合っているまちである。観光産業が発達して雇用が生まれている。[秋保温泉]で従業員が住民として住んでいるように、工場や企業の従業員が住むことを考えると、[江ノ島]のイメージに近いのではないか。
 - 飛行機で仙台空港に着陸するときに、いい閑上の景色が見えれば行ってみたいと思うだろう。

(安全・安心)

- 安心・安全の閑上であって欲しいが、テーマにすると「本当に安全なのか」という話になる。
- 安全・安心は当たり前と言うことで、目につくような書き方をしなくていいだろう。
- 安全・安心への配慮としては、車に遮られない緑道や校舎等に屋外階段で避難できるなども議論すべき内容だろう。今までになかった安全・安心への新しい配慮をする必要がある。
- 公園に炊き出しができるベンチを設置したり、集会所に食料を備蓄したり、リヤカーで高齢者を運ぶ準備をするなど、色々な配慮が考えられる。
- 災害公営住宅の1階に市役所の出先を設けると安心するのではないかな。

(生活・生業)

- 生活や交流のほかに「雇用」も大きなテーマだ。閑上に住めば、子育てが終わったら働ける。
- 観光⇒雇用⇒住民という順序になるのではないかな。仙台市泉区紫山では、道路やバス路線を整備し、商業施設ができてから住宅地ができた。第一は、雇用の場をつくって従業員に住んでもらうのがいいのではないかな。
- これまで住んでいた皆さん自身が、どうすれば住み続けたいと思うのか。
- 自転車を通える距離で何でも揃う。子育てを引退した後、小遣い稼ぎができるといい。
- 居酒屋、スナックなどがあるといい。
- 子供からお年寄りまでのんびりできる公園があるといい。
- 自転車で生活できるというのは重要だ。
- 仙台につながる道路、特に四郎丸へ抜ける道路が必要だろう。

(誰にとってのまち)

- 人が集まるという意味では、人やまちが景色のキーワードになる。どういう人が住むのか。
- 「住み続けたい、住んでみたい」というのがベースの考え方であり、誰でも住んで欲しいわけではない。まちの将来像に賛同する方に住んで欲しい。
- 古き良き閑上は、外の人に魅力だと思ってもらわないと存続できないだろう。
- 少子化のなかで若者をいかに呼び込むかが大事。若い世代は便利で、子育てにいい環境を選ぶだろう。ただ若者は小さな商店ではなく大型店に行く。震災前の生協にはお年寄りが多く、閉店前に少し若い方が買い足しにくる程度だった。
- 我が家を持ちたい若い世代は、土地の値段が判断材料として大きい。

(人のつながり)

- 地区民運動会をやっていたのは閑上だけだった。地区ごとのつながりがあるのがいい。
- 昔は商店などでの買い物ついでとして、話をする機会となっていた。
- 昔からいる閑上的人是に集まりたい。一方で若い人はどう思っているのか。
- 震災のときに近所づきあいの重要さが分かった。
- 避難した時には知り合いが誰もいなかったが、結果的に友達が増えることとなった。知り合いばかりでは、新しい人が入れないのではないかな。
- 町内会の集会所などがあれば人は集まるだろう。
- 子供たちと高齢者など、世代間の集まれる場があるのが重要だろう。
- 災害公営住宅の集会所をどこに設けるのか。交流しやすさを考えるべき。中庭もあるといい。

(まとめ)

- 大きな柱として「遊べる」「集まる」「住みやすい」という3つが出てきた。
- 「海・水辺で遊べる閑上」「あちこちで(多様に/多彩に)集まれる閑上」「歩いて暮らせる閑上」

という表現もある。あまり簡潔にすると閑上らしさが出てこない。

- 安全安心は大前提なので大きな柱として打ち立てるものではない。
- まちを「感じる」ということも大切だろう。潮風を感じる、人情を感じる、住みやすさを感じる。
- ビジョンの大きな柱をつくり、その中身を検討していく。次回までに事務局で整理する。

3. その他

【仙台高専】模型検討スケジュール(案)

- ・【坂口先生】模型を使ったまちづくりの検討スケジュールとして、公園、道路・住宅地、災害公営住宅、小中一貫校、商店街・福祉など、テーマごとに異なる模型をつくる想定でいる。どのような進め方がよろしいでしょうか。

(検討内容)

- 先に閑上全体の概要を検討するのはどうか。次に道路・住宅地、商店街、災害公営住宅というような順番がいいのではないか。
- 災害公営住宅は早めに検討できるといい。
- 公園は大体の位置が決まっているので、検討内容は植栽や遊具など詳細になる。急がなくても計画に反映できる。貞山運河東側の公園が決まれば、区画整理内の公園も決まってくる。
- 小中一貫校は、どういう教育をするのが重要である。教育委員会で開いている委員会でのソフトに関する議論をふまえて、ハードを検討するべきである。
- 9月までに議論が必要なのは配置と規模。災害公営住宅だけは具体的なイメージが必要かもしれない。
- 次回、図面を用いて全体的な配置を検討する。次々回(6/17)に、まずは道路と住宅の関係について模型で検討する。

(進め方)

- 模型ワークショップを世話役会でやるのか、関心ある方を集めて実施するのか。
 - ビジョンの柱を決め、部会に分かれ話し合ってから、キャラバン(移動会議)を行うのはどうか。
 - 9月を目標に焦点を絞って、広く人を募集してワークショップを何回か行うのべきだろう。
- ・【会員】震災前にあった閑上コミュニティは変わってしまうかもしれないが、仮設コミュニティも変わってしまうことが懸念される。旧来の年中行事を進めてコミュニティが持続するといい。特に地区民運動会や、どんと祭りの頃のチャセゴ、夏は盆踊りや団子焼きなどをやっていた。湊神社の例祭、稚児行列などを進めて、“いつまでも住みたいまち”という印象を持ってもらえるといい。
 - 美田園第一仮設では盆踊りの計画をしている。
 - ・【会員】閑上のまちなみDVD『望郷港町』をぜひ見てもらいたい。(会議終了後に全員で鑑賞)
 - 閑上は都心から近い田舎というイメージ。地価は安い海は近い。人が集まる要素だろう。

以上